

景気ウォッチャー調査 (沖縄地域) ～2024年9月調査～

観光需要は変わらず期待できるが県民需要に懸念

一般財団法人 南西地域産業活性化センター
メールマガジン

用語の説明

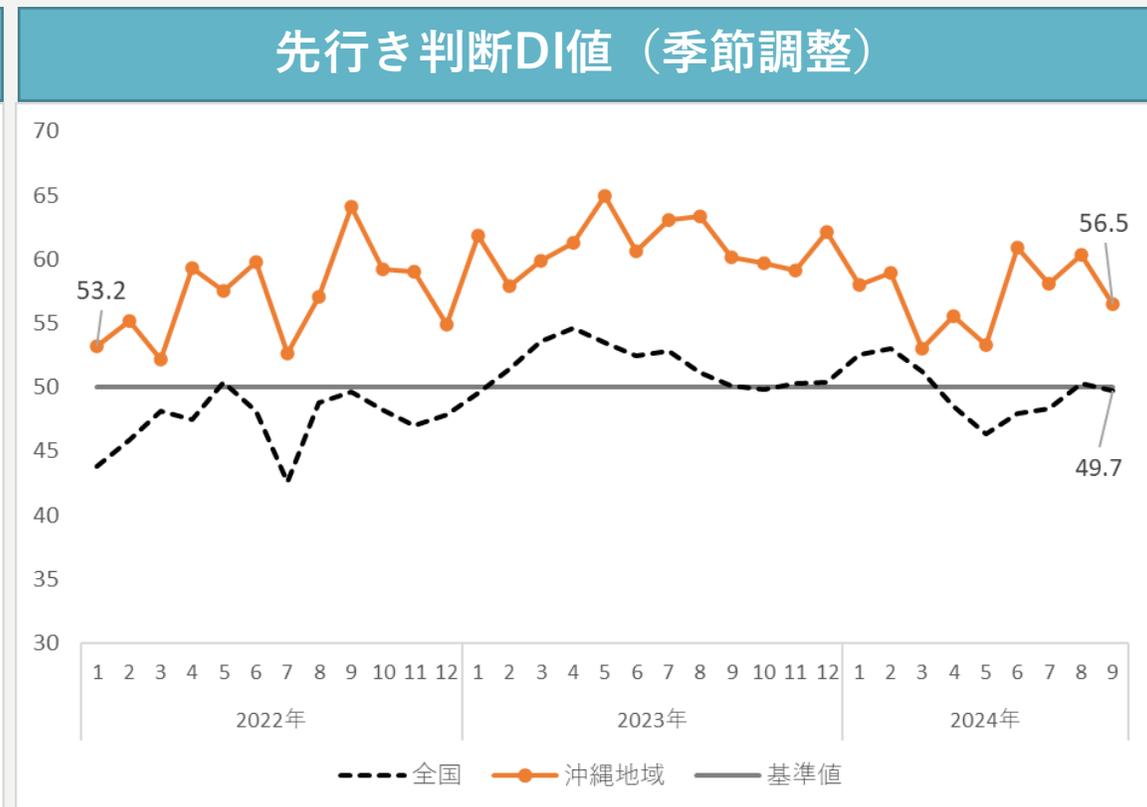
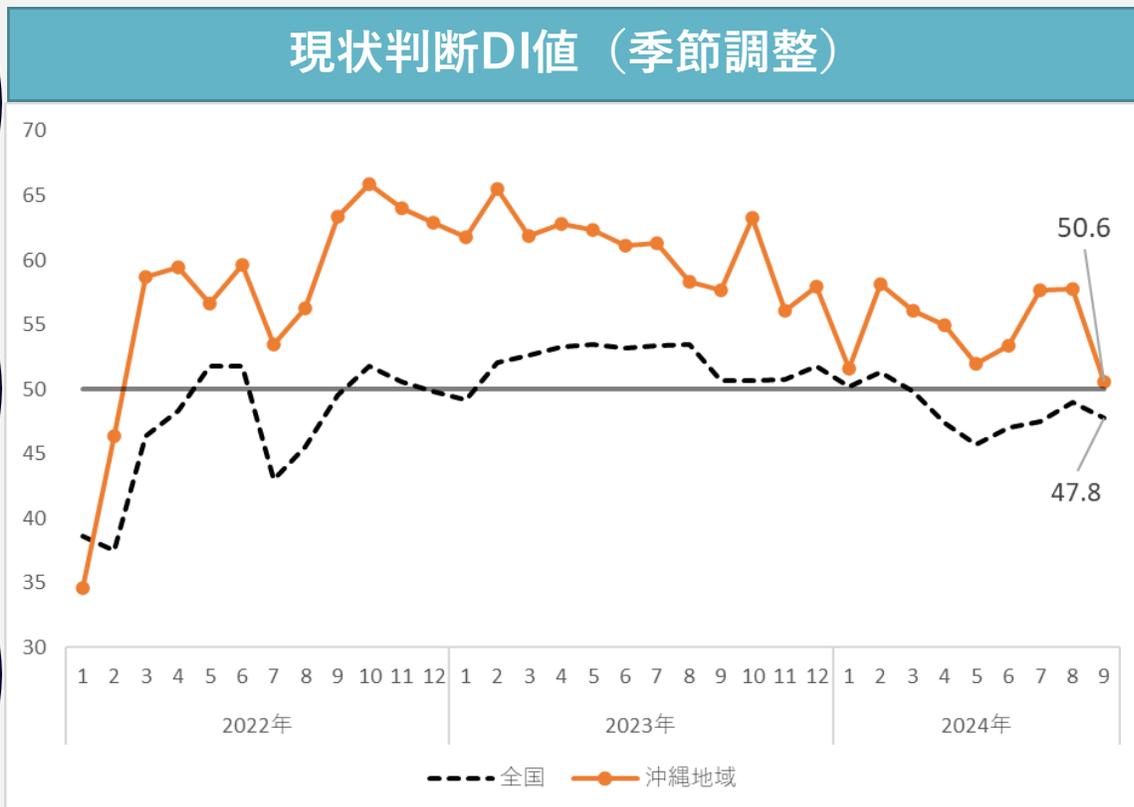
- **景気ウォッチャー調査**：地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々から、顧客の様子など日々感じている街角の景気について、毎月調べている調査。
- **DI値**：生産や消費、物価などの景気変動に関する複数の指標から、景気 directional 性や各経済分野への波及度合いを示す。値が50を上回る期間が多いと景気が好調傾向にあり、50を下回る期間が多いと不調傾向にある。
- **季節調整値**：季節的な要因で毎年同じような動きをするもの（夏にアイスクリームが沢山売れるなど）があることから、前月や前々月と比較する際に季節的な要因を除いた数値。
- **現状判断**：3か月前の景気状況と比較した、今月の身の回りの景気の具体的な状況などの説明。
- **先行き判断**：2～3か月先の身の回りの景気を今月の景気と比較した際の判断理由。

※本資料は、10月8日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」をもとに作成しています。詳細な結果は下記URLからご確認ください。

<https://www5.cao.go.jp/keizai3/2024/1008watcher/menu.html>

2024年9月調査DI値（季節調整値）

- 9月の現状判断DI（季節調整値）は、前月比7.2ポイント減少の50.6と大きく下がり、景気の判断基準となる50は下回っていないが、好不調の判断が難しくなった。昨年9月も前月比より減少しているが、0.6ポイントと減少幅は小さい。
- 9月の先行き判断DI（季節調整値）は、前月比3.8ポイント減少の56.5となったが、好調傾向は維持している。
- 全国の現状、先行き判断のDI値は上昇傾向にあったが、9月に入り減少した。現状、先行き判断DI値は共に判断基準となる50を下回った。



現状判断のコメント①

- 引き続き観光客からの需要は増加している一方で、一部の業種では県内の客数が減少していることから物価上昇の影響が依然として影響していると考えられる。

<家計動向関連>

◎：良くなっている、○：やや良くなっている、□：変わらない、▲：やや悪くなっている、×：悪くなっている

○	商店街（代表者）	• 飲食・観光関連が良くなっているが、雑貨店など小売が厳しい状況にあるとみられる。
○	観光型ホテル（企画担当）	• 6月の販売室数が前年比33%増加なのに対し、9月は前年比28%増加となっており、プラス幅が縮小している。
○	旅行代理店（マネージャー）	• 微増ではあるが売上が前年を上回っている。取扱数量は少ないが単価が高いことが影響している。
□	百貨店（経営担当）	• 衣料品では夏物と秋物の端境期ということもあり購買意欲の変化がみられない。
□	住宅販売会社（役員）	• 分譲マンション、建売住宅のどちらも完成在庫が徐々に増える傾向にある。一定数の需要はあるが需給調整をしていることがうかがえる。
▲	コンビニ（経営企画担当）	• 3か月前と比較して、直近では来客数が減少しており、台風の影響が大きく出ている。悪天候が続いており、観光客の影響が少ない地域では、地元客の動きが鈍い状況が続いている。
▲	通信会社（営業担当）	• ここ数か月の販売数が前年を下回ることにはなかったが、9月は90%と前年割れをしている。新商品発売の初動は良かったが数日で落ち着いた。
×	その他飲食店〔バー〕（経営者）	• 来客数全体のなかでは、特に団体客が減少しており、周辺の同業者からも地元客が動いていないと聞いている。

現状判断のコメント②

- 企業動向関連では、観光関連を中心に需要は増加傾向にある。
- 雇用関連では、新卒の学生向けの求人は好調である。しかし、全体として賃上げにより人件費の上昇が予測されることから人を雇うことができない。もしくは人手不足により供給量が減少しているため、人を雇う必要がないなどの理由から、求人数が横ばいであると推察される。

< 企業動向関連 >

◎：良くなっている、○：やや良くなっている、□：変わらない、▲：やや悪くなっている、×：悪くなっている

○ 食料品製造業（役員）	• 県内の調査機関の景気動向調査によると、県内の個人消費、観光関連市場の拡大が続いている。実感としても特に観光関連販売の拡大が続いている。
○ 窯業土石業（取締役）	• 受注状況に大きな変化はないが、見積依頼は3か月前と比較して民間工事が増加傾向にある。

< 雇用関連 >

○ 学校〔専門学校〕（就職担当）	• 前月同様、2025年卒向けの求人数は落ち着いているが、2026年卒採用に向けてのインターンシップの案内が増加している。
□ 人材派遣会社（総務担当）	• 求人募集を行っても、求職者の動きが鈍くなかなかマッチングにつながらない。
□ 求人情報誌製作会社（営業）	• 3か月前から求人数はほぼ横ばいである。業種や職種などにおいても全体的に大きな変化がみられない。新型コロナウイルス感染症発生前や過去2年の秋口は求人数が増加していたため、求人数増加を見込んでいたが、それもみられなかった。求人の動きが少し変化している。

先行き判断のコメント①

- 中国では、「国慶節」などの大型連休が控えていることもあり、外国人観光客を筆頭に観光関連の需要が引き続き増加すると予想される。
- 台風などの悪天候、気温の上昇により季節の移ろいを感じられないなど、観光関連以外では売上が伸び悩み、物価上昇や電気料金の補助終了など、コスト上昇要因が多く見受けられ、先行きの懸念が見られる。

<家計動向関連>

◎：良くなっている、○：やや良くなっている、□：変わらない、▲：やや悪くなっている、×：悪くなっている

○	百貨店（経営担当）	• 10月は国慶節によりアジア圏の観光客が増加するとみている。
○	コンビニ（副店長）	• 来月は最低賃金の引上げがあり、賃金増加分以上の売上の確保を経営者側は求められる。実質賃金が物価上昇率を超え積極的な消費につながらなければ利益確保は難しく、経営者側が更に身を削ることになるため、新政権には抜本的改革を期待する。
□	コンビニ（経営企画担当）	• 新型コロナウイルス感染症発生前と比べ、悪天候時の影響が強くなるようになった。まだ台風の影響が懸念されることから、天候次第という状況である。特に、10～11月までは慎重に判断しなければならないとみている。
□	衣料品専門店（経営者）	• 例年だと新しい季節の商品が売れ始めるが、季節がずれてきたのか、商品の売行きがまだ良くない。来月からの動きをみていきたい。景気が良くなっている気配はまだ見受けられない。
▲	スーパー（企画担当）	• 8月は入域観光客数が100万人を超えたものの、10月には今年最多の品目数と予想される食品値上げが控えていることや電気料金の補助も10月分までとなっていることから、2～3か月先の景気はやや悪くなると考えられる。
▲	観光型ホテル（企画担当）	• 9月の販売室数が前年比28%増加なのに対し、9月末時点での12月の予約室数は前年比19%増加となっており、プラス幅が縮小している。

先行き判断のコメント②

- 企業動向関連では、見積依頼の増加による今後の需要増も見込まれる業態がある中、物価高騰や円安傾向などにより先行きの懸念も見られる。
- 雇用関係では、新卒採用に向けてた活動がはじまるが、それ以外の求人活動は積極的ではない。求職者から物価高の影響により生活ができなくなるなど懸念の声もある。

< 企業動向関連 >

◎：良くなっている、○：やや良くなっている、□：変わらない、▲：やや悪くなっている、×：悪くなっている

○ 窯業土石業（取締役）	• 見積依頼が緩やかに増加しており、3か月後は売上増加が見込める。
□ 広告代理店（営業担当）	• 県内企業の販売促進活動は、個人消費などの足元の景気とは異なり減速傾向にある。
□ 会計事務所（所長）	• 物価高騰、為替の円安傾向などの状況が当面続くとみている。

< 雇用関連 >

○ 学校〔専門学校〕（就職担当）	• 2026年卒向けの説明会や早期選考が始まることもあり、新年度を待たずに求人票が来るとみている。
□ 職業安定所（職員）	• 新規求人数が減少し、新規求職者数は増加している。物価高の影響で、現在の賃金や年金で生活できないという声もあり、景気回復の要因となるような声が聞こえてこない。
▲ 求人情報誌製作会社（営業）	• 例年は夏に比べ、秋の求人数が増加し、年末にかけて緩やかに減少していた。しかし、秋の増加がみられないことから、例年より求人数は減少するとみている。